

R18

D  
E  
E  
A  
R  
F  
E  
E  
L  
I  
N  
G





Yuki Yuna ha yusha de aru fan book "DEAR FEELING" presented by JunkStory



元々寝起きの良い方では無かったが

友奈ちゃん  
そろそろ起きないと

遅刻しちゃうよ

この間の戦闘以来、  
拍車がかかってしまっている

うう……

ギュー

眠い……

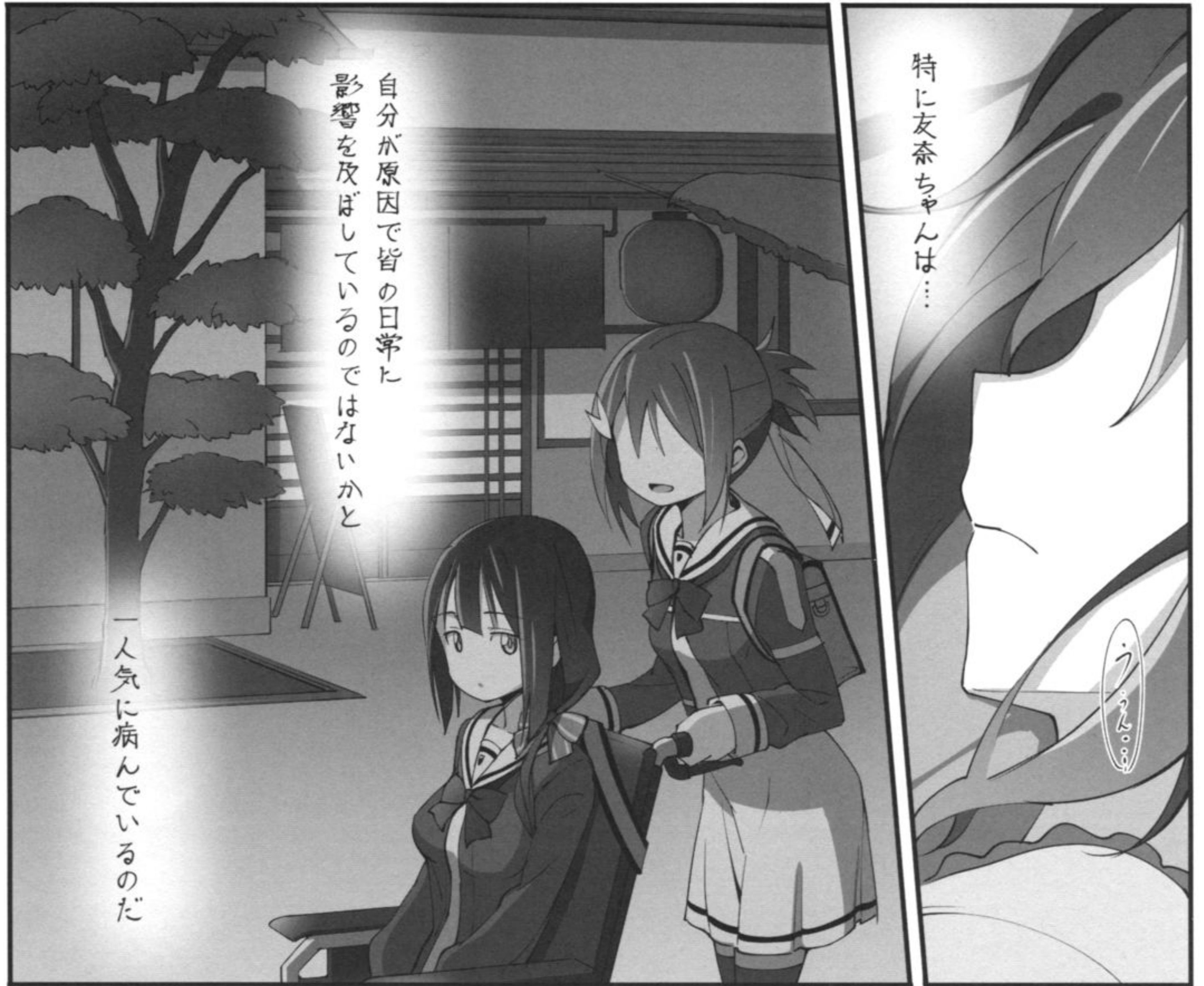
起きたくないよ……

無理も無いことだ



あの日を境に  
私たちは

身体機能の一部を  
失った



特に友奈ちゃんは…

自分が原因で皆の日常に  
影響を及ぼしているのではないかと

一人気に病んでいるのだ



ただでさえ、  
つらい状況だと  
いうのに……

普段は平気そうにしているが

うん、眠いな…

もう少しだけ…

そうされてしまうと私は無理強いが出来ず

朝のこの時間だけ、  
わがままな顔を覗かせるようになった

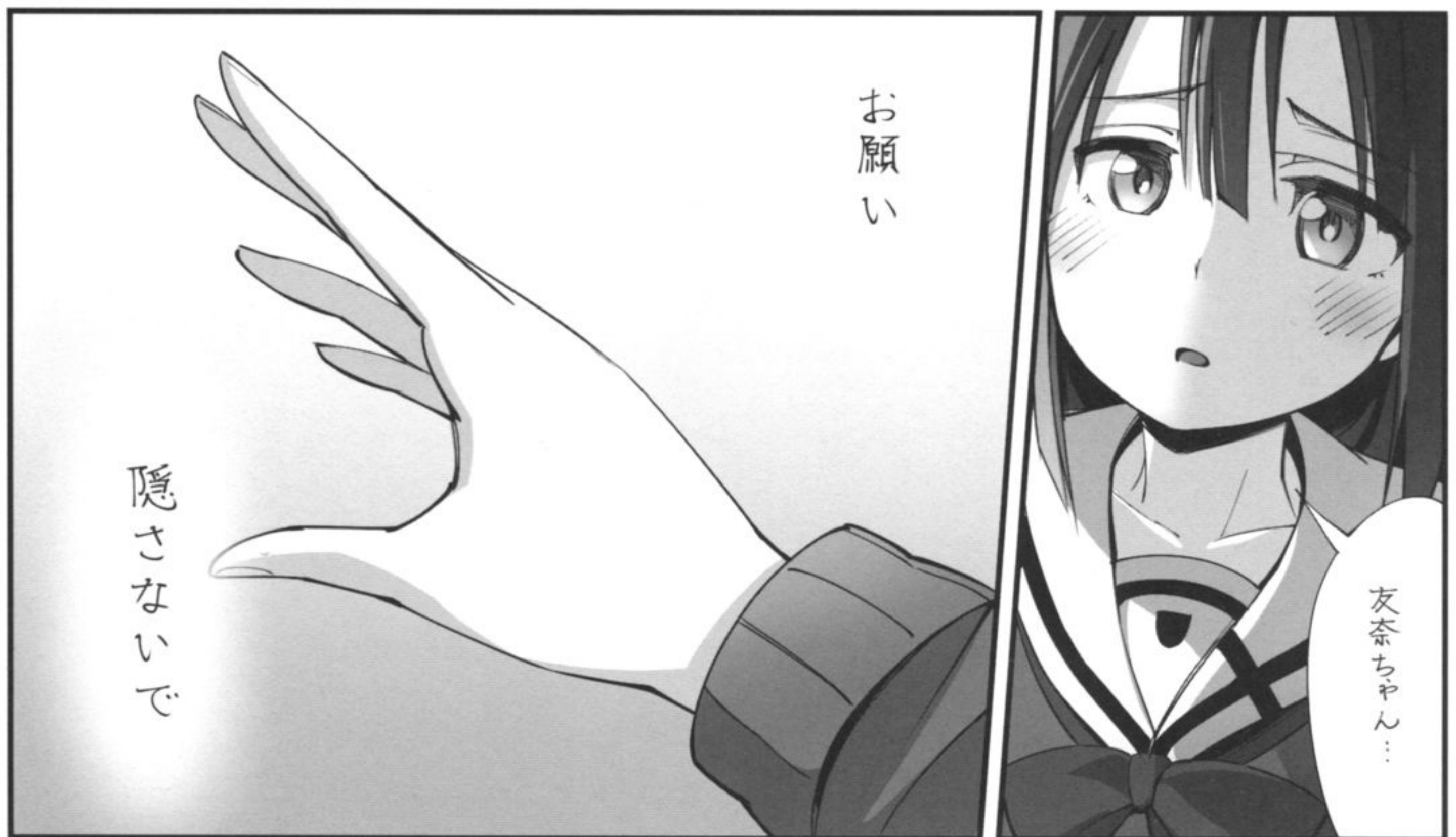
もう少ししたら  
起きて

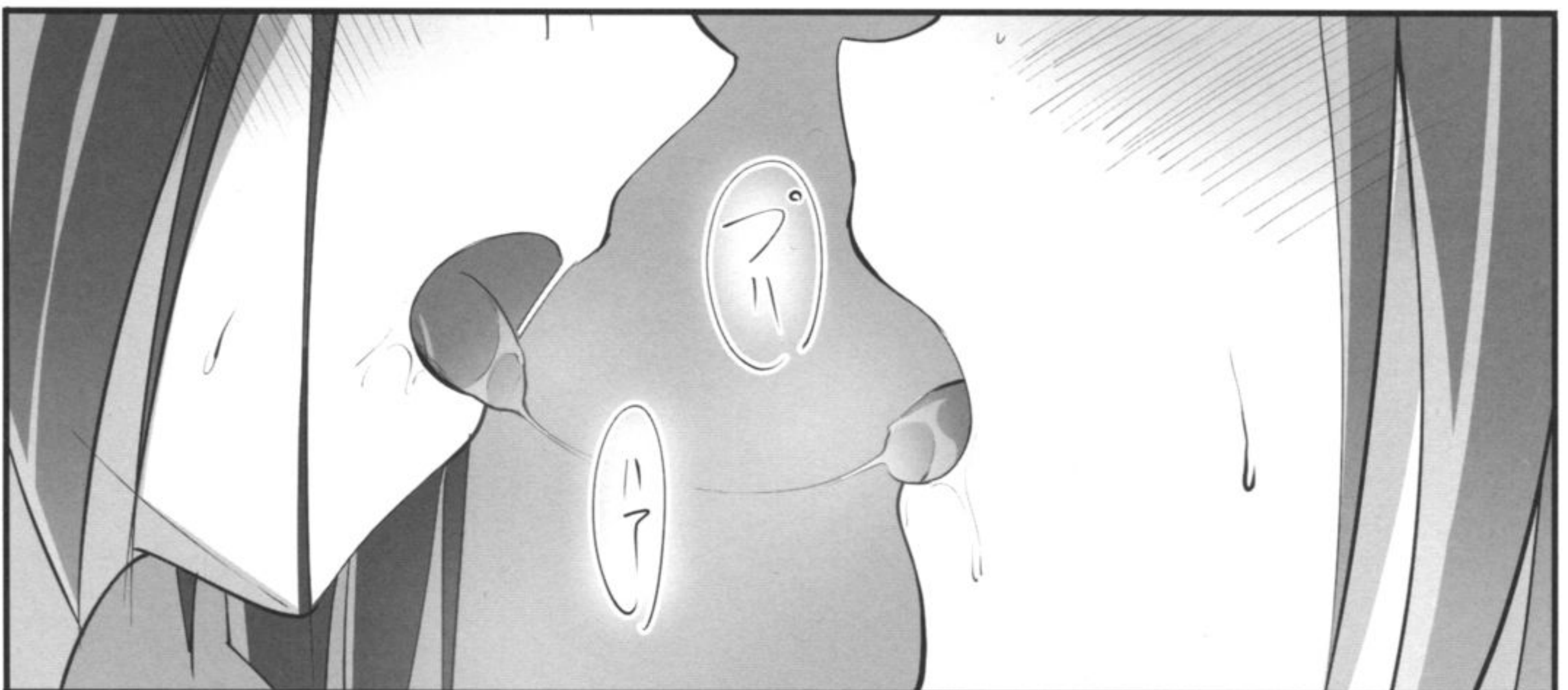
学校に行くのよ？

つい、甘やかしてしまっ

でも…

うーん













無理をしないで

ハハハ

スッ



おいで

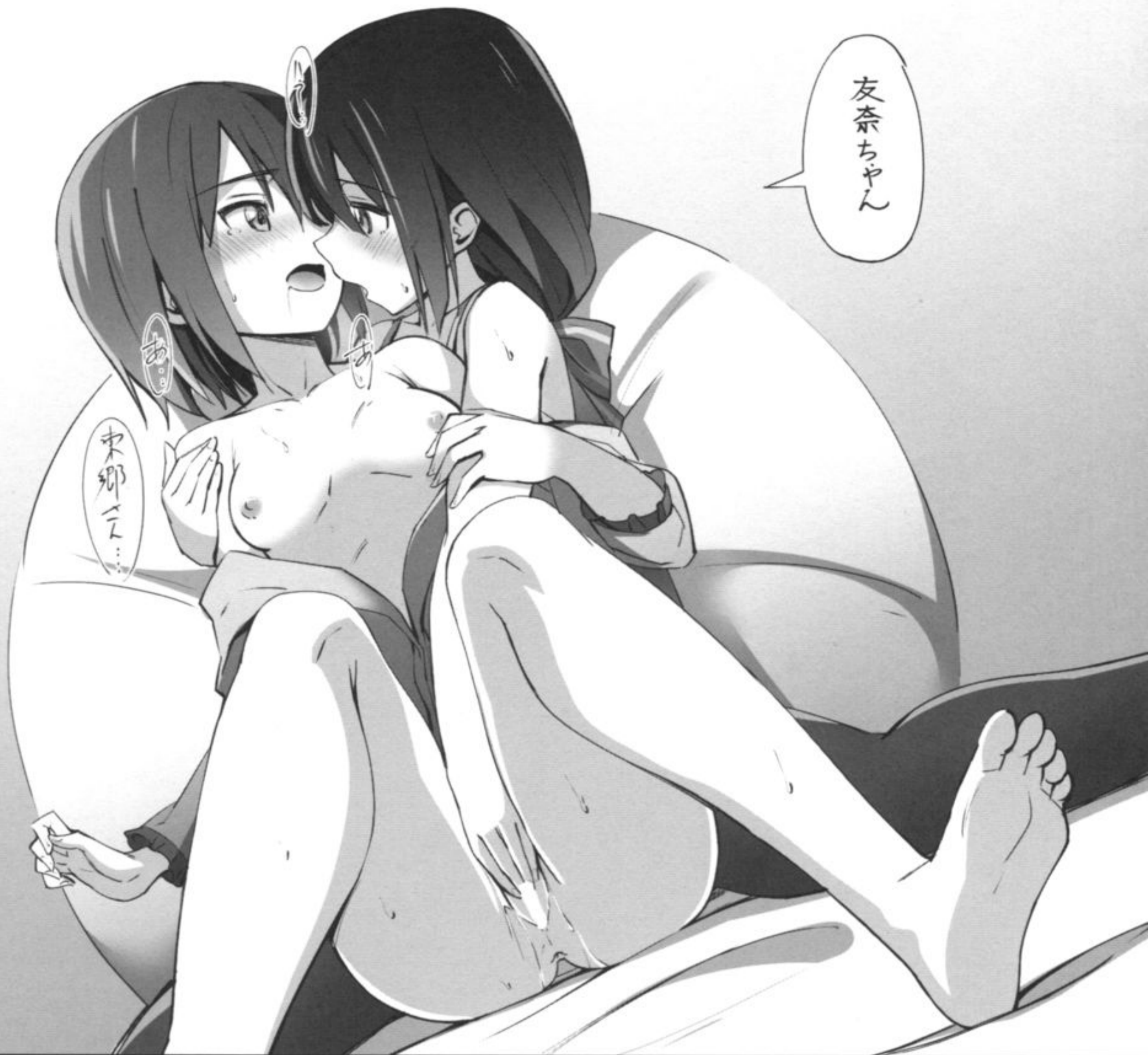
あ……



Minowa  
Gin

…最近はずっとこう





友奈ちゃん

東郷さん...



触る前から  
沢山滯れてたよ

匂いも...  
こんなに...

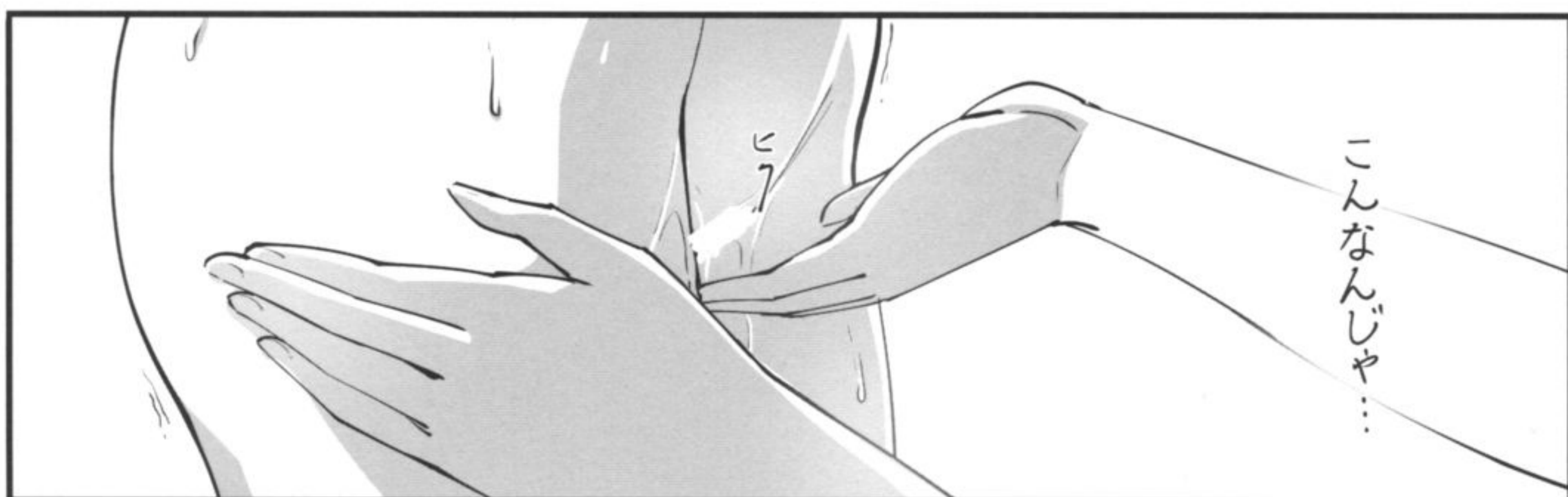


ん...

あ...あ...

ク...チ...













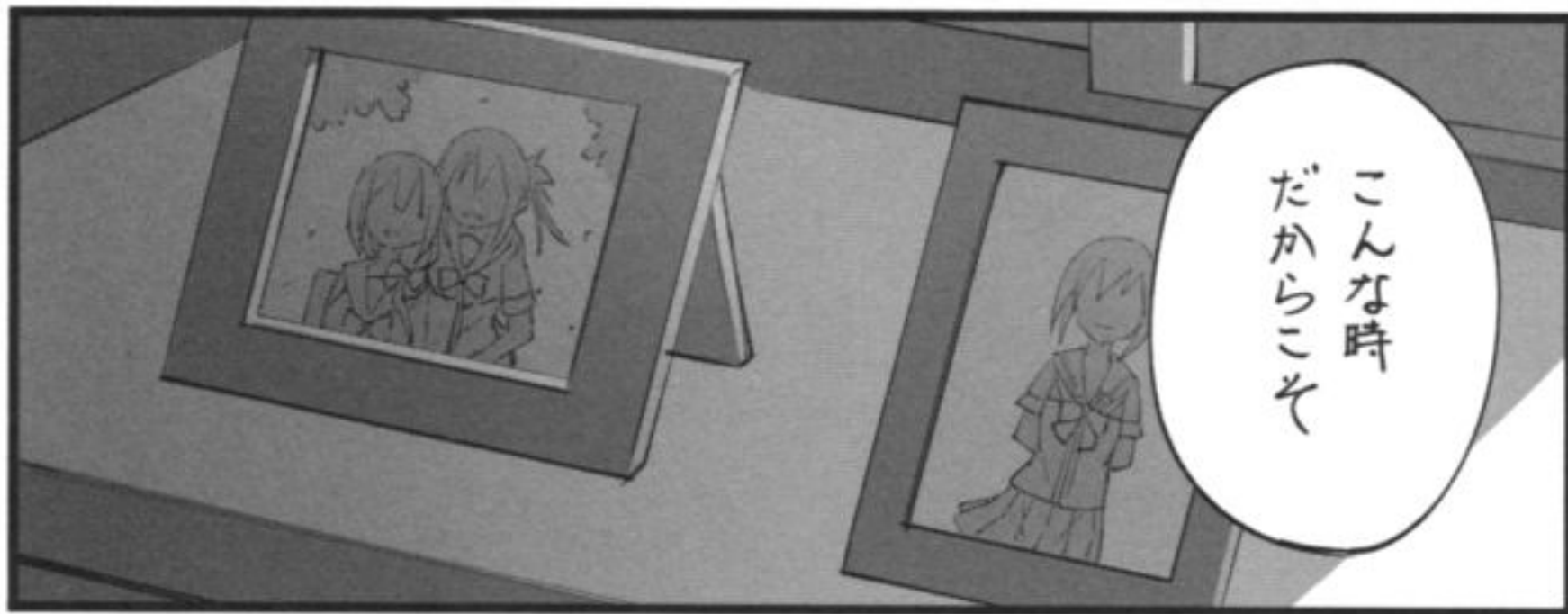




それだけ、  
私も嬉しいから



友奈ちゃんが  
私を感じてくれたら



こんな時  
だからこそ



東郷さん…

ありがとっ…



もっと私を…  
必要として欲しいの



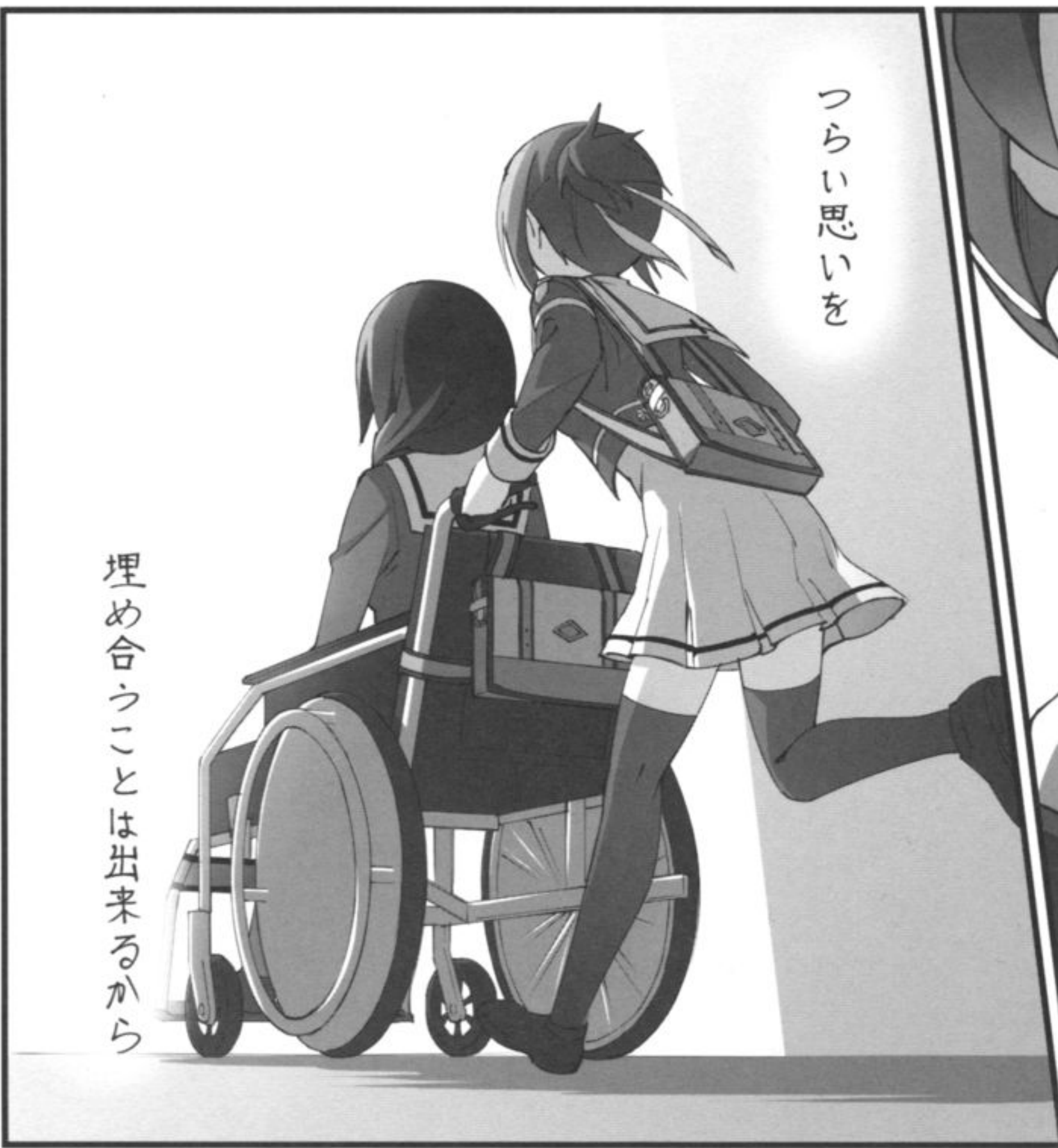


まだ  
戸惑うことが多い



想いを遂げられるのは

いつになるだろう？



つらい思いを

埋め合うことは出来るから



それでも

たとえこの先

どれだけのものを  
失おうと

残された感覚の全部で

寄り添い

感じ合い

温め合おう





# DEAR FEELING

発行日: 2015/07/05

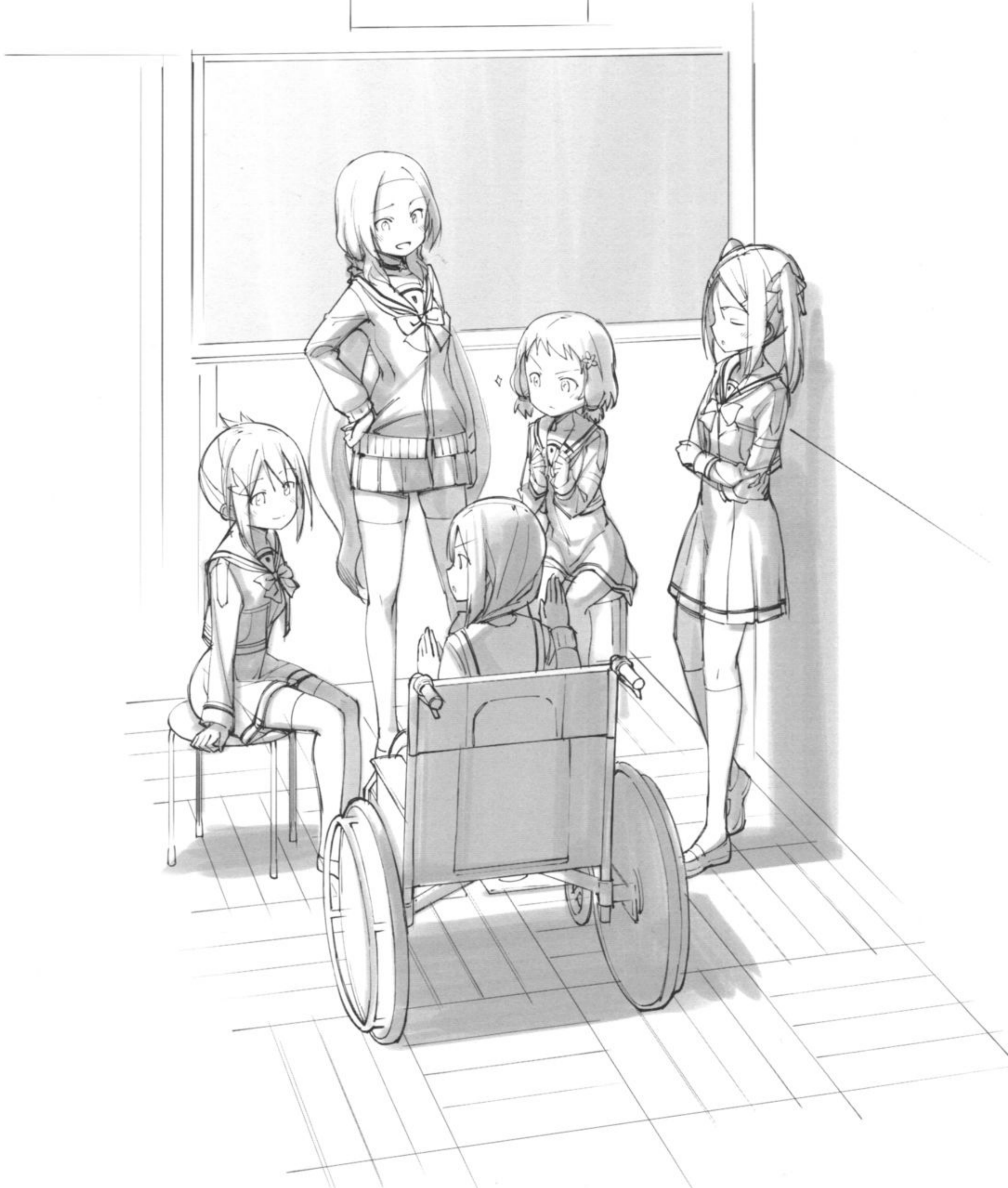
印刷: ねこのしっぽ

発行者: ミ茶いる

[junk-story.com](http://junk-story.com)

[twitter: @mitcher\\_meier](https://twitter.com/mitcher_meier)

[pixiv: 84659](https://pixiv.com/users/84659)



ゆゆゆ沼よりおはこんばんにちは。ミ茶います。

この時期に同人誌を作成する予定は無かったのですが  
気づいたらゆゆゆに飲まれ、こういった薄い本が出来上がりました。ゆゆゆ恐ろしい子…

さて何を描こうかと考え、まあゆうみもなのは決まってるとして、  
ゆうみもはゆうみもでも時期によって様々な描写が可能ですよね。

最終話後の甘さに磨きのかかったゆうみもも大変良いのですが、今回はあえてその前を選びました。  
元々ゆゆゆは放送当初から注目してた訳ではなく、中盤辺りからのめり込んでった感じなんですね。  
明確にここからってのが思い出せないのですが、自分が最も気を引かれてしまったのは勇者システムと散華の設定かと思われます。  
この辺、制作陣の人心掌握術にまんまとかかってしまった感じで悔しいのですが。

その中でも特に心に刺さったのが友奈の散華な訳です。

力を使った代償に体の機能を失う。おおう凄いシステムだ。でもパワーアップの為に致し方無いとしましょうか。  
でも味覚って。戦闘には一番影響しないけど日常への影響が半端なさ過ぎます。  
まあそのうち治るんだろうと思って見てましたが一向に治る気配なし。水着回も散華中のまま進行！鬼か！

勇者部五箇条にはよく寝てよく食べるとあります。友奈は勇者部の勇者として、  
ずっとこの五箇条を胸に戦ってきたと思いますが、供物が戻るまでどれだけつらかったでしょうか。  
勿論他のメンバーも大きな傷を負い、つらい思いの中で戦ってきた訳ですが、  
自分にとってはどうしてもこの、三大欲求に直結する味覚の欠落という描写があまりに生々しく、  
ゆゆゆから目を離せなくなる大きな要素となった訳です。

それで実際に味覚が無くなって、友奈は具体的にどうなってしまうだろうかと考えました。  
食事の楽しみは皆無と言っていい訳で、まず寝起きは確実に悪くなるでしょう。  
そんでまあムラムラし易くなるでしょう。その思考の結果がこの本です。いやあ分かりやすい。

内容の方は友奈が東郷に慰めて貰うだけな感じになりましたが、  
東郷は東郷で、友奈を助けたくて、苦痛を取り除いてあげたいと思ってるはずですし、  
また体が不自由であることを考えると、快活な友奈に対して危機感に似たものを持ってたかも知れません。  
いつか友奈が自分から離れてしまうかも知れない。それを繋ぎ止めたいと思ってても変ではないと思います。

2人の思い出や記憶には東郷の作ったぼた餅の味が染み込んでいるはずと考えました。  
友奈が飛び上がるくらい美味しかったぼた餅。毎日食べたいという友奈の言葉に東郷は応え続けた事でしょう。  
これからもずっと続くことを願った、愛情の味です。  
それを感じられなくなり、また感じさせてあげられなくなった。

それはお互いにとって、とてもつらいことだったでしょう。主に友奈は肉体的な部分で、東郷は精神的な部分で。  
それでもお互いを想い合う気持ちは、途切れることなくずっと続いてたのです。うええゆうみも尊い…

そんなこんなが、自分の中に浮かんだ散華中のゆうみも像でした。  
台詞回しとか漫画的表現とか諸々拙い内容で、どれだけ意図が伝えられたのか不安ですが、  
作品のファンの方々に少しでも楽しんで頂けたなら幸いです。



 JUNK STORY